

平成 21 年 6 月 4 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2005-2008

課題番号：17320046

研究課題名（和文） フランスにおけるキリスト教と文学

研究課題名（英文） Literature and Christianity in France

研究代表者

塩川徹也（TETSUYA SHIOKAWA）

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授

研究者番号：00109050

研究成果の概要：キリスト教が社会と文化の基底を形作ってきたフランスにおいて、宗教と文学のあいだに存在した相互交渉の諸相を把握し、それを通じてキリスト教と文学の双方がどのように変容を遂げていったかを、それぞれの時代とジャンルに即して検討した。関係の歴史の変遷を通時的に見通すところまでは行かなかったが、いくつかのテーマ（理神論、オリエンタリズム）と何人かの作家（パスカル、ロベール・シャルル、ヴォルテール、ネルヴァル、ランボー、カミュ、ル・クレジオ）については相当の成果を得た。

交付額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|---------|------------|-----------|------------|
| 2005 年度 | 3,100,000 | 0 | 3,100,000 |
| 2006 年度 | 4,400,000 | 0 | 4,400,000 |
| 2007 年度 | 3,700,000 | 1,110,000 | 4,810,000 |
| 2008 年度 | 2,200,000 | 660,000 | 2,860,000 |
| 年度 | | | |
| 総計 | 13,400,000 | 1,770,000 | 15,170,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学

キーワード：(1)キリスト教 (2)フランス文学 (3)理神論 (4)パスカル (5)ロベール・シャルル (6)フランス演劇 (7)地下文書 (8)自由思想

1. 研究開始当初の背景

フランスの文化はキリスト教の圧倒的な影響の下に形成されて来ただけに、文学についても、キリスト教の知識なしにはその意味と価値の理解はおぼつかない。その意味で、文学の背景にあるキリスト教の思想と信仰を解明する試み、また逆に、信仰がどのように文学に表現されているかを分析する試みは枚挙に暇がない。しかしながら従来の研究は、キリスト教にしても文学にしても、それを自明の所与として、その前提に立って両者

の関係を静的に考察してきた。その上、フランスをはじめとする欧米の研究は、キリスト教文化圏の内部にあるために、研究に必要な対象に対する違和感と距離感に欠けるところがある。本研究は、そのような背景を踏まえて、非キリスト教圏・非ヨーロッパ文化圏の視点に立って、両者のダイナミックな関係を捉えようとするものである。

2. 研究の目的

本研究は、いわゆる「キリスト教文学」キリスト教の信仰及び人間観の表現を目指す文学が、フランス文学の歴史の中でどのように展開してきたかを明らかにすることを目的とはしていない。そうではなくて、キリスト教と文学のあいだに存在した相互交渉、接触、浸透、協力、摩擦、反発、衝突の諸相を把握し、それを通じて、キリスト教と文学の両者のあり方がどのように変容を遂げていったかを通時的に跡づけ、最終的には、キリスト教とは何か、文学とは何かという問いに、フランス文化という文脈に即して、ある見通しを与えることを目指している。

3. 研究の方法

(1) キリスト教と文学が何であるかは、最終的には研究の結果として展望されるものであるが、研究の出発点においても事前の理解が必要であり、それについても隣接分野の研究者、そして海外の研究者の協力を得て、準備段階から理解を深める努力をした。

(2) その結果、本研究では、キリスト教に批判的な思想潮流と文学も重要な主題となることを確認した。抗して反キリスト教を標榜した自由思想、理神論、そしてキリスト教といっても、フランスの主流であるカトリシズムのみならず、プロテスタント主義、そしてカトリック教会内の少数派（ジャンセニズムやキエティズム）も考察の対象として取り上げた。また文学についても、19世紀以降の狭義の「文学」に収まらない学者・文学者の文筆活動（哲学、宗教、歴史、文学）を広く取り上げる方針をとった。

(3) その上で、各研究分担者は自らの担当する時代と領域について研究を進めた。

(4) フランスの研究者・研究組織、とりわけパリ・ソルボンヌ大学、及びそれに付属する「17・18世紀フランス語フランス文学研究センター」、さらにボルドー第3大学と緊密な連携を取り、それらの機関から専門家を招聘し、日本側も代表者が数回フランスに赴き、共同研究を行った。

4. 研究成果

(1) 分担者田村教授は、博士論文『ネルヴァルの詩学』で、ネルヴァルの創作におけるキリスト教と諸宗教混交の錯綜した関係に新たな光を当てた。

(2) 分担者竹内准教授は、アルベール・カミュに関する博士論文で、対独協力者粛清問題について、無神論者カミュとキリスト教作家モーリヤックのあいだに戦わされた論争を追跡し、正義と宗教あるいは無宗教の関係に

ついて新たな知見を提出した。

(3) 分担者中地教授は、ランボーが「福音書」を換骨奪胎して記した文章の意味と機能について新たな見解を打ち出し、それを国内外の学会で発表した。

(4) 分担者鈴木専任講師は、フランスで刊行した博士論文で、ル・クレジオが、メキシコのインディオやインド洋の島々との接触を通して、近代ヨーロッパのキリスト教文明といかなる距離を取るようになったその道程を明らかにした。

(5) 分担者畑助教は、19世紀前半の東方旅行記の分析を通じて、ヨーロッパと接触した東方文明（オスマン・トルコとイスラム）の変容の諸相に新たな知見をもたらした。

(6) 代表者塩川教授は、パスカルの時間論について、また彼のパンセ（思想とその表現）観についての新たな知見を国内外の学会で発表した。またロベール・シャールの理神論がパスカルのキリスト教との厳しい対立の中で形成されたことを明らかにした。

(7) フランスの研究協力者3名の研究発表をもとにした論文3本、代表者がパリ・ソルボンヌ大学で行った研究発表をもとにした論文4本を研究成果報告書としてまとめた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計23件）

Tetsuya SHIOKAWA, « Le temps et l'éternité selon Pascal », *XVII^e siècle*, no. 239, 60^e année, no. 2, 2008, p. 273-283. （査読有）

Tetsuya SHIOKAWA, « La campagne de la 18^e Provinciale », *Chroniques de Port-Royal*, no. 58, 2008, p. 59-71. （査読なし）

Tetsuya SHIOKAWA, « La pensée selon Pascal », *ibid.*, 2008, p. 399-414. （査読あり）

竹内修一, 「歴史的契機としての処刑——カミュの近代史観について」
Septentrional, no.1, 2008, p.43-58（査読有）

Tetsuya SHIOKAWA, « Entre la pensée et l'œuvre » in *L'autre de l'œuvre* (sous la direction de

Yoshikazu NAKAJI, Presses Universitaires de Vincennes, 2007, p. 39-48. (査読なし)

塩川徹也, 「パスカルにとって パンセとは何であったか」『フランス哲学・思想研究』第12号、2007年、p. 3-15 (査読なし)

中地義和, 「螺旋の歩み、ロマネスクのゆくえ」(訳者あとがき)、ロラン・バルト著作集9『ロマネスクの誘惑』、みすず書房、2006年、p.292-304 (査読なし)

中地義和, 「父祖の物語を書く作家 —— ル・クレジオの「モーリシャス小説」」、『ル・クレジオ —— 地上の夢』(現代詩手帖特集版)、2006年10月、p. 156-167 (査読なし)

Yoshikazu NAKAJI, « Rimbaud autoportraitiste » in *Arthur Rimbaud à l'aube d'un nouveau siècle*, Actes du colloque de Kyoto, publiés sous la direction de Hitoshi Usami, Klincksieck, 2006, p. 165-176 (査読有)

中地義和, 「熟すということ —— ル・クレジオの持続と変容」、『すばる』、2006年5月号、p. 182-189 (査読なし)

塚本昌則, 「訳者あとがき」, ロラン・バルト『中性 について』、筑摩書房、2006年、p. 357-363 (査読なし)

塚本昌則, 「アルペール・カミュ『異邦人』 —— 沈黙の翻訳」、『翻訳の地平 —— フランス編』、弘学社、2006年、p.99-115 (査読なし)

竹内修一, 「未来と殺人 —— コミュニストたちの裁判と『反抗的人間』」、『仏語仏文学研究』(東京大学仏語仏文学研究会)、第32号、2006年、p. 151-176 (査読有)

鈴木雅生, 「夢想の力 —— 『ロンドその他の三面記事』をめぐって」、『ル・クレジオ —— 地上の夢』(現代詩手帖特集版) 思潮社、2006年、p. 176-182. (査読有)

鈴木雅生, 「ル・クレジオにおける空間の聖化 —— カオスからコスモスへ」、『聖域の表象と文学表現 —— 新古典主義からロマン主義へ』(平成16-17年度科学研究費補助金研究成果報告書、研究代表者: 田村毅)、2006年、p. 93-100 (査読なし)

Yoshikazu NAKAJI, « Le mage rendu au sol : sur les proses “évangéliques” » in *Parade sauvage*, Colloque No5 « Vies et poétiques de Rimbaud, 16-19 septembre 2004 », Charleville-Mézières, Musée-Bibliothèque Rimbaud, 2005, p. 454-464 (査読有)

中地義和, 「「親愛なる友人たち」 —— ランボー・アフリカ書簡における家族」、『季刊『iichiko』2005年秋季(10月)号』、p. 19-28 (査読なし)

塚本昌則, 「メドゥーサとしてのイメージ」(訳者解説)、ジュリア・クリステヴァ『斬首の光景』、みすず書房、2005年、p. 249-258 (査読なし)

塚本昌則, 「生成しつづけるテキストの快楽: ヴァレリーの「現在」」(恒川邦夫・山田広昭・森本淳生との座談会); 「ヴァレリー・キーワード10: ポーラン」、『現代詩手帖』、2005年10月、p. 22-48; p. 142-143 (査読なし)

Masanori TSUKAMOTO, « *Les Paradis artificiels et Monsieur Teste : La théâtralisation de la conscience* », 『フランス詩のフォルムの変遷とその文化的規定』 *Formes poétiques françaises et facteurs culturels*、平成14-16年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))研究成果報告書、研究代表者: 中地義和)、2005年5月、p. 139-148 (査読なし)

塚本昌則, 「見えない写真 —— 心のなかのフレーム」、『写真との対話』(近藤耕人・管啓次郎編)、国書刊行会、2005年2月、p. 185-197 (査読なし)

塚本昌則, 「<細部>へのまなざし」(訳

者あとがき)、ロラン・バルト著作集
4『記号学への夢』、みすず書房、
2005年、p. 394-402(査読なし)

Masanori TSUKAMOTO, « Le récepteur
productif — pour une esthétique de la
simulation chez Valéry », *Forschungen
zu Paul Valéry*, n° 16,
Christian-Alberchts-Universität Kiel,
2004, p. 113-128(査読有)

[学会発表](計15件)

畑浩一郎,「他者との邂逅——フラン
ス・ロマン主義時代のオリエンツ旅行
記をめぐって——」、地中海学会定
例研究会、東京大学本郷キャンパス、
2008年12月13日

Tetsuya SHIOKAWA, « La génétique
des *opera interrupta*. Le cas de
Pascal », 日仏シンポジウム「文学作
品はいかにして生まれるか——草
稿、文化的背景、テーマの変遷」京大
大学文学部フランス文学研究室及び
関西日仏学館共催、2007年12月7日

Tetsuya SHIOKAWA, « La campagne
de la 18^e Provinciale », ポール・ロワ
ヤル友の会及びパリ第4大学17-18
世紀フランス語フランス文学研究セ
ンター共催研究集会「プロヴァンシア
ルのキャンペーン」, 2007年9月19日

竹内修一,「カミュの近代史観について」,
カミュ研究会、明治大学、2007年5月
19日

Tetsuya SHIOKAWA, « *Quod bellum
firmavit, pax ficta non auferat*: de
la campagne des Provinciales aux
événements de mai 68 », 파리第4大
学フランス文学科ジェラルール・フェレ
ロル教授セミナーでの講演、2007年
4月6日

Tetsuya SHIOKAWA, « La place de
l'apologétique dans les *Pensées* »,
パリ第4大学フランス文学科ジェラ
ール・フェレロル教授セミナーでの講

演、2007年3月29日

Tetsuya SHIOKAWA, « Traduction et
interprétation : à propos du nez de
Cléopâtre », 파리第4大学フランス
文学科ミシェル・ドロン教授セミナー
での講演、2007年3月21日

Tetsuya SHIOKAWA, « Introduction
aux études françaises au Japon : un
survol », 파리第4大学フランス文学
科主催講演会、2007年3月19日

塩川徹也,「パスカルにとってパンセ
とは何であったか」日仏哲学会2006
年度秋季シンポジウム「パスカルと現
代——パスカル解釈をめぐって」
2006年9月9日; 파리第4大学フラ
ンス文学科ジェラルール・フェレロル教
授セミナーでの講演、2007年3月
16日

Tetsuya SHIOKAWA, « Pascal
adversaire de Robert Challe dans
les *Difficultés sur la Religion
proposées au Père Malebranche* »,
日仏シンポジウム「対話としてのフラ
ンス自伝文学——自伝はだれに向
けて書かれるのか」京大大学フランス
文学研究室及び関西日仏学館共催、
2005年4月15日; 파리第4大学17
-18世紀フランス語フランス文学研
究センター主催講演会、2007年3月
15日

竹内修一,「歴史的契機としての処刑」,
日本フランス語フランス文学会北海
道支部会、札幌日仏協会フォワイエ、
2006年12月9日

中地義和,「作家ル・クレジオとマスカ
レーニュ」、シンポジウム「ル・クレ
ジオの群島——モロッコ、マスカレ
ーニュ、メキシコ」における発表、
2006年1月29日、東京外国語大学

田村毅,「ロマン派の夢と人類の叙事詩」,
2006年1月25日、東京大学文学部文化
交流懇談会

田村毅,「マドレーヌ寺院」, 2005年11月

15日、共立女子大学

鈴木雅生, 「ル・クレジオにおけるイン
ディオ体験の意味 —— アルトーと
の比較を通して」、2005年5月29日、
日本フランス語フランス文学会春季
大会

〔図書〕(計7件)

塩川徹也, 『哲学の歴史5』「デカルト革
命」中央公論新社、〔V「アルノー」
275-297 ページ; VII「パスカル」
337-374 ページ〕

Koichiro HATA, *Voyageurs romantiques
en Orient, études sur la perception de
l'autre*, L'Harmattan, coll. Critiques
littéraires, 2008, 410 p.

Yoshikazu, NAKAJI, *L'Autre de l'œuvre*,
sous la direction de Yoshikazu Nakaji,
Paris, Presses Universitaires de
Vincennes, 2007, 360 p. 編著

Masao, SUZUKI, *J.-M.G. Le Clézio :
évolution spirituelle et littéraire.
Par-delà l'Occident moderne*,
L'Harmattan, coll. « Critiques
Littéraires », 2007, 290 p.

田村毅, 『ジェラルド・ド・ネルヴァル
— 幻想から神話へ』、東京大学出版
会、2006年、482 p.

田村毅, 『ロワイヤル仏和辞典』(第二
版)、旺文社、2005年、編著

中地義和, 『ランポー 自画像の詩学』、
岩波書店、2005年、310 p.

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0 件)

○取得状況(計 0 件)

〔その他〕

なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

塩川 徹也 (TETSUYA SHIOKAWA)
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号: 00109050

(2)研究分担者

田村 毅 (TAKESHI TAMURA)
東京大学・大学院人文社会系研究科・名誉
教授
研究者番号: 90011379

月村 辰雄 (TATSUO TUKIMURA)
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号: 50143342

中地 義和 (YOSHIKAZU NAKAJI)
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号: 50188942

塚本 昌則 (MASANORI TSUKAMOTO)
東京大学・大学院人文社会系研究科・准教
授

研究者番号: 90242081

竹内 修一 (SHUICHI TAKEUCHI)
北海道大学・文学部・准教授

研究者番号: 40345244

鈴木 雅生 (MASAO SUZUKI)
共立女子大学・文芸学部・専任講師
研究者番号: 30431878

(平成20年8月5日まで)

畑 浩一郎 (KOICHIRO HATA)
東京大学・大学院人文社会系研究科・助教
研究者番号: 20514574

(3)連携研究者

鈴木 雅生 (MASAO SUZUKI)
共立女子大学・文芸学部・専任講師
研究者番号: 30431878

(4)研究協力者

Sylvain MENANT

パリ第4大学教授

Geneviève ARTIGAS-MENANT

パリ第12大学教授

Charles MAZOUER

ボルドー第3大学教授